海外研修便り

　こんにちは。私は東７下病棟の看護師の阿部かおりです。National Institutes of Health（NIH）の National Institute on Alcohol Abuse and Alcoholism (NIAAA)と、久里浜アルコール症センターとの間で今年から始まった看護師の海外研修に参加するため、アメリカメリーランド州に来ています。

　私は 2011 年 7 月 13 日（水）に日本を出発し、約 12 時間のフライト時間を経て、同日にアメリカ、メリーランド州ベセスダに到着しました。

　到着翌日から、National Institutes of Health（NIH）の National Institute on Alcohol Abuse and Alcoholism (NIAAA)　に、出勤しました。NIH は、地下鉄の Medical Center 駅の長いエスカレーターを上るとすぐ目の前でした。セキュリティーチェックの後、ついに敷地内へ。とにかく敷地が広く、ビルが大きく、木々の背も高く、多くの人が出勤している様子から、日本とアメリカの違いを感じました。

　しかし、敷地内の目的のビルに到着したものの、NIAAA の表示が見当たらず、数人の方に教えてもらって、やっと NIAAA に到着。アメリカ研修が決まり、どのような場所なのか検討もつかないまま準備を続け、一人でなんとかこの場所に辿り着き、私を Welcome と Dena さんが受け入れてくれた時には、とても安心しました。

　アメリカに到着後、約２週間は、生活基盤となるアパート探しや、アパートの契約、公共料金の手続き、家具や日用品の買い物の他、NIH では、NIH の新採用者向けのオリエンテーション等を受講する日々です。オリエンテーションは、NIH の歴史や、感染対策、研究に関する倫理などの内容で、パソコンのオンラインで受講するものや、授業の出席が必要な講座、テキストを読むものなど、さまざまなパターンがあります。当然、すべてが英語なので内容の理解はほとんど出来ていないと思います。しかし、

こちらの講義手法としては、ビデオを用いることが多いため、視覚的な情報が私の理解の手助けをしてくれています。

　今日までの約２週間、こちらで研究を続けていらっしゃる木村充先生や、日本人の不動産屋さん、同じアパートの日本人御家族といった日本人だけでなく、NIAAA の David George 先生、Vijay Ramchandani 先生、Vatsalya　Vatsalya 先生、Dena Stringer さん、同じアパートの日本人の御家族など、多く方々がとても親切にして下さいます。スーパーや、地下鉄内などでも、困ったらすぐに人に尋ねると皆さん丁寧に教えて下さるので、とてもありがたく感じる日々です。やっと、NIH/NIAAA まで迷わず通え、スーパーで買い物ができるといった生活ですが、半年間、頑張ろうと思います。

阿部かおり